

帯広市大型カルバート長寿命化修繕計画

令和2年10月

帯広市都市環境部土木室土木課

1 長寿命化修繕計画の目的

1) 背景

帯広市が管理する大型カルバートは、現在 1 基あり建設から 8 年が経過している。現時点で確認されている劣化・損傷は、早期に措置すべき状態に至っていないが、今後はさらに老朽化が進むことが見込まれる。

このような中、老朽化の進展が見込まれる大型カルバートを計画的・効率的に保全し、今後費用の増大が見込まれる修繕・架替えに要するコストの縮減を図るため、平成 30 年度に実施した近接目視による定期点検の結果を踏まえた修繕計画を策定する。

2) 目的

今後、道路施設の老朽化が進む中、計画的な修繕により安全で安心な交通路を確保しつつ、施設の長寿命化を図り維持管理の効率性を高めることで、修繕・架替えに要する費用の縮減を図ることを目的とする。

このためには、従来の事後的な修繕及び架替えではなく、定期点検等により施設の現状を把握し、効果的な修繕及び架替えを行うなど予防保全型の維持管理を進めるとともに、修繕年度の前倒しや先送りにより維持管理に要する費用の平準化に努める必要がある。

3) 計画期間

計画期間は、令和 2 年～令和 11 年とする。

2 長寿命化修繕計画の対象施設

長寿命化修繕計画の対象とする大型カルバートを以下に示す。

施設名	建設年次	経過年数	延長	幅員
弥生通アンダーパス	2012年 (平成24年)	8年	35.00m	27.50m

【全景写真】



写真1 起点側



写真2 終点側

3 健全度の把握及び日常的な維持管理に関する基本的な方針

1) 健全度の把握の基本的な方針

「シールド、大型カルバート等定期点検要領（平成 31 年 2 月）国土交通省道路局」に基づき、近接目視による 5 年に 1 回の定期点検を実施し、維持管理の基礎となる施設の損傷データの蓄積を行う。

また、定期パトロールや地震時及び洪水発生直後などにおける臨時点検を行い、施設の損傷状態の把握に努める。

2) 日常的な維持管理に関する基本的な方針

施設を良好な状態に保つため、道路巡視パトロール時に施設の状態を確認し、交通機能や第三者に影響を及ぼす損傷がないかなどを把握するとともに、清掃を実施するなど、日常的な維持管理に努める。

4 対象施設の長寿命化及び修繕・架替えに係る費用の縮減に関する基本的な方針

1) 基本的な方針

- ・健全度の把握及び日常的な維持管理に関する基本方針に基づき、予防保全的な維持管理を進めることで、ライフサイクルコスト（LCC）の縮減を図る。
- ・定期点検結果に基づき、損傷に対する劣化予測を行い、予防的な修繕の推進により修繕の大規模化や事業費の増大を回避する。
- ・点検⇒診断⇒措置⇒記録⇒(次の点検)のメンテナンスサイクルを通じて、大型カルバート長寿命化修繕計画に反映（見直し）しながら内容の充実を図る。

2) 対象施設の状態

対象施設の点検・診断結果は、別紙「対象施設一覧」による。

5 対象施設ごとの概ねの修繕内容・時期又は架替え時期

1) 計画期間内における補修対象施設

現在のところ計画期間内における修繕等の予定はない。

ただし、定期点検等において著しい損傷の進展が確認された場合は対策等を検討する。

2) 修繕の優先順位の考え方

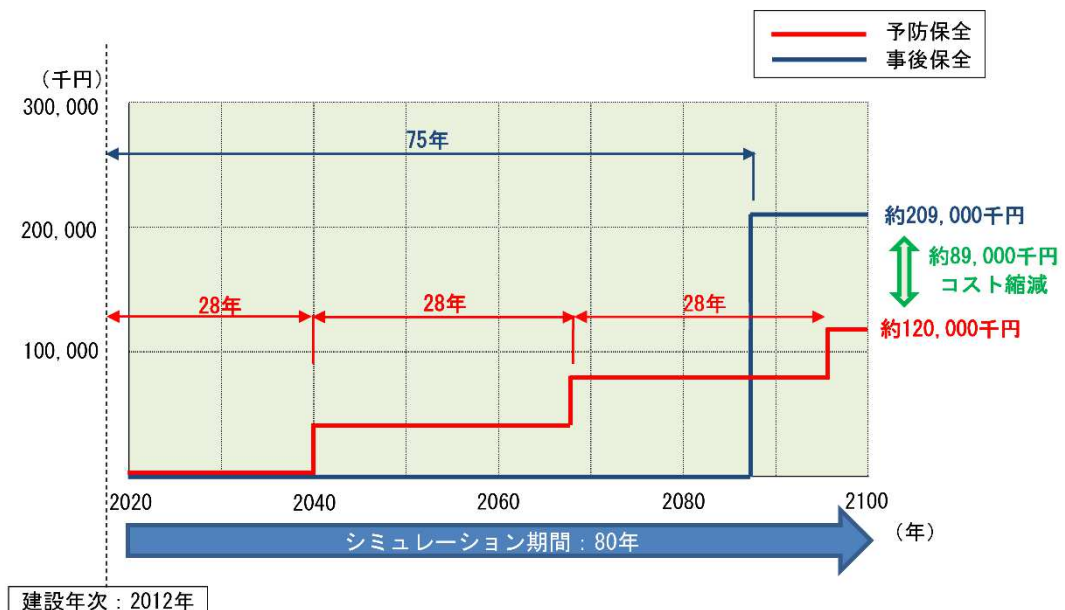
現時点において管理する施設は1施設であるが、今後新設や引継ぎ等により複数の施設を管理した場合、修繕の優先順位については施設の健全性を基本とするほか、以下を考慮しながら計画する。

- 1巡目の定期点検において「判定区分Ⅲ」と診断された施設
- 緊急輸送道路や都市計画道路などの重要度の高い路線の施設
- DID 区域内の施設
- その他、第三者影響度や予防保全の観点から修繕を優先することが望ましい施設

6 長寿命化修繕計画による効果

今後80年間の保全・更新費用のシミュレーション結果によると、大規模補修・更新の場合（全く修繕を行わず劣化が進行してから架替える）では約209百万円の予算が必要になるのに対し、予防保全の場合（最も経済的な維持管理ができるように早めの対応を行う）では約120百万円となり、約89百万円の縮減効果が見込まれる。なお、この費用は今後の劣化状態の変化などを踏まえた計画の見直しにより変動することが考えられ、将来の予算を担保するものではない。

評価期間については、大型カルバートの耐用年数が財務省令による耐用年数表から75年であることから、更新までを包括できる期間として設定した。



7 計画策定担当部署

1) 計画策定担当部署

帯広市 都市環境部 土木室 土木課

TEL : 0155-65-4183